

## 理事長退任のごあいさつ

足立己幸

大変長い間、お世話になりました。ありがとうございました。本日、開会のあいさつで、お詫び申し上げますように、大きな課題を残したままの退任を、どうぞお許してください。

NPO 食生態学実践フォーラムとしての出発から 18 年、支えてくださった、数えきれないほど多くの方々に、感謝申し上げます。

NPO 設立の準備段階というか、胎生期にあたる「食生態学実践グループ」が宮城県蔵王山麓に「食生態学実践セミナーハウス」を建て、「食事づくりセミナー」をはじめたのが 1983 年ですから、この間の 20 年をプラスすると 38 年間、お世話になったことになります。本当にありがとうございました。

たくさんの優秀な会員、食生態学実践と研究の両面から、個性的能力を発揮し、活動される若手会員に速やかにバトンを渡し、活躍していただくべきでした。ずるずると理事長職をさせていただいたこと、申し訳ないことをしたと、反省しています。

「食生態学実践フォーラム」は一人残らずの人々の、それぞれの生活の質と環境の質の、よりよい共生、持続可能な共生をめざして、「食を営む力」を育てあうことをめざしてきました。

この方向は（「食生態学—実践と研究」13 号の指定発言にも書かせていただきましたが）今世界中で共有され、実行へと努力されている SGDGs のめざす「5 つの P」やその実現のための「17 のゴール」にしっかり重なってきます。

実は、昨日、日本時間の夜中 2 時から、皆さんご存知のイソベル・コンテンツ教授のコロンビア大学退職記念・国際シンポジウムがありました。世界中から第一線の栄養教育関連の研究者や実践者が参加した、熱っぽい・素晴らしい講演でした。

びっくりしたのは、イソベル教授の講演最後の総括で、まずイソベルの「栄養教育の重層構造の概念図」が出され、個人内から家族・組織・地域へと様々な内的要因と環境要因がかかわっていく、その構造的な理解と対応する計画が重要だと話されました。

その次に何と、足立の、皆さんおなじみの「地域における食の営みの図」小学生バージョンの概念図がスライドいっぱい映し出されました。

びっくりして、うれしくて、でも緊張して、涙が出てきました。「今こそ、世界で求められている栄養教育」の国際シンポジウムで、世界の関係者に発信されたことになります。

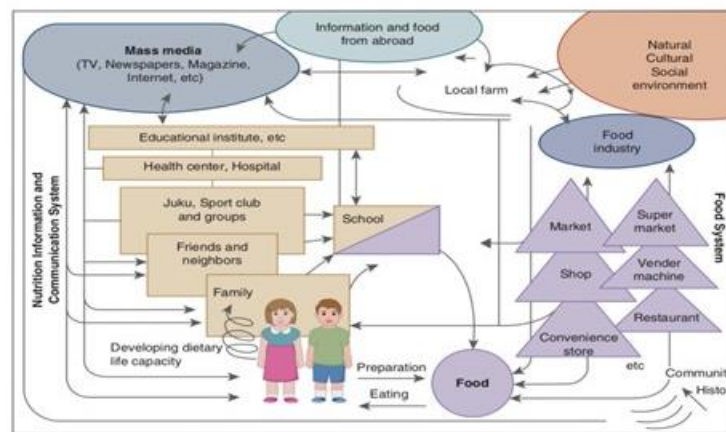
食生態学のコンセプトや実践と研究が、今までの方向でいいんだ、と勇気をもらいました。実践と研究の両面から、十分な吟味を重ねて、日常の実践に役立つ内容と表現法に進化・発達させなければならないと、勇気をいただきました。

The first column (left side) shows that how the *societal structures and cultural norms level* influenced access to food are natural environment, macrosocial factors, and inequalities. These lay out the social order, rules about ownership, control of resources, and distribution of income and resources within the inner levels. More specifically, this level has the upstream factors that influence the built environment in the *communities and sectors of influence level*, as well as the stressors and social context at the *organizations and institutions level* and social integration and support, health behaviors, health outcomes, and well-being at the *individual factors and interpersonal relationship level*. The arrows show how the levels influence each other. The main conclusion drawn from this study is that when we want to change health outcomes that are influenced by what we eat, we often start with trying to change individuals' food choices. Yet, at the same time, we need to work much further upstream with the deep, historical, and firmly embedded structures, policies, and systems that limit access to healthy foods.

In another example, when food education was introduced into schools in Japan along with healthful lunches, nutrition educators were very clear that such action was embedded in a much larger context, as shown in **FIGURE 6-3**.

### Building Environmental Supports Through Families and Social Networks

As stated above, the first way nutrition educators create environmental supports for the targeted behavior change goals of our interventions is through building family and social networks. This fits into the *individual factors and interpersonal relationships level* of the socio-ecological framework and directly builds on the nutrition education with groups discussed in Chapters 4 and 5. We all have social relationships that include family and social networks made up of friends, neighbors, peers, coworkers, and those in various organizations to which individuals belong. These greatly influence our food choices and dietary behaviors.



**FIGURE 6-3** Food and nutrition dynamics in the community: a case study of school children.

Reproduced from Adachi 2008. Theories of nutrition education and promotion in Japan. *Enactment of the Food and Education Basic Law*. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition* 17(5): 180-184.

これからはNPO 法人食生態学実践フォーラムの会員として、私にできることを（私も 85 歳になりましたので、できる範囲で）自由にやらさせていただきます。よろしくお願いいたします。

その一つは、今まで問題提起してきた課題について、執筆した論文等の整理をして、会員の皆さまにも活用いただけるような本や教材にしたいと思います。

まず、近いうちに、女子栄養大学出版部から、コロナが厳しく問いかけてきた機に「共食・孤食の真髓」（仮題）を発行いたしますので、よろしくお願いいたします。

これからもお世話になることが多いと思います。よろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

※第 18 回総会時あいさつの再掲です。